

第 80 回大阪市中小企業対策審議会議事録

日時：平成 17 年 11 月 1 日(火) 午後 2 時～4 時

場所：大阪キャッスルホテル 6 階 「鴛鴦」

出席者：

(審議会)秋山委員、亀坂委員、志水委員、新堂委員、高橋委員、東海委員、宮澤委員、和田委員

(本市)葛本経済局長、中村企画部長、三浦産業振興部長、中野新産業施策担当部長、小川企業支援担当部長、島田工業研究所所長、経済局各幹事

補職名は会議開催日現在

議事

○「平成 17 年度経済局主要事業の進捗状況」「今後の取り組み」について、事務局より説明。

○今後の施策の進め方について意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

〔新産業の創出に関する意見〕

- ・ロボット産業育成について、これからは、これまで以上に市内の中小企業・ベンチャー企業を引きつけていくために、マーケットが見えるような形で、ロボットのコンセプト・概念を広げていってほしい。
- ・健康・予防医療産業は、世界で儲けていくために、世界のトップレベルの技術を持ち込んでくる必要がある。

〔中小企業の支援に関する意見〕

- ・ビジネスマッチングは、一つの視点に縛られることなく、大阪の地元企業同士や海外との国際連携など、様々なところからマッチングの成果が生まれてくるようにするべきである。
- ・ベンチャー企業等だけではなく、企業再生も重要であり、金融面や後継者問題等から、企業再生を後押しできるような対応をお願いしたい。
- ・本社機能の東京移転の歯止め対策が十分ではない。大阪の企業は統計上でも、廃業や倒産が多くなってきているので、大阪の中小企業が、現状をよくするために考えていることを行動に移せるようなアクションプランをつくるなど、対策をお願いしたい。
- ・地元企業や地方の信用金庫等、地域で必死に生き残ろうと努力している人々の間で交流の

輪を広げながら、大阪の中小企業活性化策を考えて欲しい。また、中小企業者等が行う交流事業の PR について協力してほしい。

〔商業の活性化に関する意見〕

- ・大阪市の商店街活性化に対する支援策があっても、自己資金の都合で利用できない商店街が出てくるなど、商店街も二極化が進んできており、今後とも施策のあり方について、検討を続けていってほしい。
- ・小売市場については、大阪産業創造館等も積極的に利用しつつ、後継者の指導・育成という面に特に重点を置いて、事業に取り組んでおり、今後も引き続き支援をお願いしたい。

〔広報に関する意見〕

- ・市民や中小企業の立場に立った、分かりやすい広報に努めてほしい。
- ・社会心理学を応用した形で、マーケットの把握等を行い、大阪市の施策づくりや広報等に活用できないか。
- ・新聞の記事に掲載されることが少ないが、うまくマスメディアを活用できていないのではないか。
- ・研究会での検討や、新しい大阪中小企業のネーミングづくりなどを行い、大阪のブランド力を高めていく工夫が必要である。

〔大阪産業創造館に関する意見〕

- ・大阪産業創造館は、中小企業支援やベンチャー育成のみならず、先端技術の国際会議や展示会の開催等もすることができる、様々な可能性を有した施設である。
- ・大阪産業創造館のような、市民のための大阪市の窓口というものをもっと広げてほしい。